



木下部長と市長

みんなで交通事故防止へ

市内での交通死亡事故が1年間発生しなかったことを受け、6月26日、岐阜県警察本部から「交通死亡事故ゼロ1年達成」の感謝状が授与されました。

交通部長の木下裕さんは「日ごろから地元のボランティア活動など交通安全の意識を持って取り組んでいただいたおかげ」と感謝を述べると、市長は「これからも市民の皆さんと啓発活動を続けていきたい」と意気込みを語りました。

増築校舎へ引っ越しました

蘇南中学校校舎の大規模改造工事の一環で完成した8教室分の校舎へ、7月2日、2年生の生徒が引っ越しをしました。生徒たちからは「コロナ休みが続いた分、みんなで楽しく過ごしたい」などの声が聞かれました。

増築校舎は、3～4年後に生徒数が1,000人を超えることと、建築から40年を超えた校舎をリニューアルする工事期間中の代替教室の対応を兼ねたものです。この工事は引き続き行われ、来年度末に完了する予定です。



完成した校舎と引っ越しをする生徒



メモを取りながら豪雨災害について学ぶ児童

災害の教訓 子どもたちにも

7月13日、広見小学校5年生の児童が、県可茂土木事務所の職員から「7・15豪雨災害」について学びました。児童は今後、学校周辺を調査して独自のハザードマップを作る予定です。

「10年前の災害から何をどう直して、よりよくしているのかももっと知りたい」「洪水が起きた時に、どこが危険で、どこに逃げれば良いか調べたい」と児童からはハザードマップ作りへの意欲的な意見が聞かれました。

7・15 豪雨災害を忘れない

平成22年に可児市で発生した7・15豪雨災害では、可児川の氾濫で1人が亡くなり、2人が行方不明となりました。10年たった7月15日、市民団体が集いの会を催し、犠牲者の家族や支援者が故人をしのびました。

妻を亡くされた細田昭彦さんは「自然災害が起きてしまうのは仕方がない。モノは直せるが、人命は戻らない。命を守るために一人一人何ができるか考えてほしい」と話しました。



可児川へ向かって花を捧げる参加者